◆水明インターネット句会◆　令和四年六月

1	母叱る夢の涙や明易し	
2	銀の粒離れ集まる蓮浮葉	
3	梅雨に入るかすれた音のジャズ喫茶	
4	冷し酒中途半端に酔ひにけり	
5	山帰り路上ライブの夏夕べ	
6	二歩三歩蜥蜴這ふなり陰日なた	
7	闇夜ありバナナ突き刺し武器とする	
8	浜風や身幅に余る宿浴衣	
9	南無阿弥と唱え地蜂にフマキラー	
10	青梅の青さに惚れることがあり	
11	朝虹や射す日は雨の洗いたて	
12	田の神の輪投げ遊びか植田雨	
13	五月闇林のカフェに昼灯り	
14	赤き袴のふはりとくぐる茅の輪かな	
15	鮑焼く海女の小声の艶話	
16	少年に男の匂ひ夏帽子	
17	垣隠し黄の帯となる木香薔薇	
18	紫陽花の主なき庭にたわわなり	
19	余花明かり仙人暮らす一軒家	
20	ひとつづつあとはじやんけんさくらんぼ	

◆水明インターネット句会◆　令和四年六月

21	夏潮やふくらむ安房の真帆片帆
22	紫陽花の折り紙覚えし頃遠く
23	たえまなく揺るる終活えごの花
24	手花火や隣家は子らのはしゃぎ声
25	亀がいる睡蓮が咲くそれでいい
26	辣韮の白皮剥くや孫いとし
27	警策の動く気配や仏法僧
28	知床の海よ鎮めよ山瀬風くる
29	丸々と入梅鰯笊にあり
30	神妙に蟄居の構へ梅雨に入る
31	鰻喰ふことは信心成田山
32	そよ風と光の海の梅雨晴間
33	君逝きて君を知らずや白牡丹
34	梅雨晴やわざわい少し手で払い
35	入梅鰯ほどよくメてあてに夜
36	水無月や千百号の「水明誌」
37	初夏やフランス窓を開けて海
38	黒髪や宵に紅さす花火舟
39	嘘もまたときに労り枇杷を剥く
40	バーゲンの白のTシャツ更衣

◆水明インターネット句会◆　令和四年六月

41 でむしや一両列車を待つホーム
42 紫陽花は雨のエキスで虹色に
43 朝からの河鹿で目覚む旅の宿
44 京豆腐よく売れる日や夕薄暑
45 どくだみや平家の裔の小商ひ
46 六月のくるぶし浸る草の波
47 青嵐跳ね返しゐる頭首工
48 うすつぺらき匙上手く抜くかき氷
49 さざ波の走り来植田初初し
50 暮れなずむ空を切り裂く蚊食鳥
51 最上下る舟歌朗朗紅の花
52 薫風の身の内を過ぎ生気満つ
53 五月雨の京に番傘蛇の目傘
54 坊主頭に旋毛がふたつ蝸牛
55 梅雨晴れ間互い違いに傘を干す
56 夏夕べ油の匂ふ町工場
57 源平のほたる恋して争はず
58 葉の先をこぼるる真珠梅雨晴間
59 理不尽な日々に備えよ我が梅酒
60 梅雨入や考え事をしたくなり

◆水明インターネット句会◆　令和四年六月

61 木漏れ日や見上ぐ額に青時雨

62 航跡の先に影なし五月闇

63 白南風やミサ曲聞こゆ石畳

64 帆船の余生悠々風薫る

65 打水や九尺（くしゃく）二間（にけん）の拠りどころ

66 梅雨の晴蝙蝠傘を杖にして

67 果たされぬまたの約束花藻咲く

68 嫁入りの舟に卯の花腐しかな

69 黄昏の故山眺める蟇

70 形代と共に茅の輪をくぐりをり

71 刈草の干涸ぶ川辺芳しき

72 生き急ぎいつしか独り蚊帳の外